

## 2021年度線区別収支及び営業係数の公表について

2022年11月8日

当社では、人口減少や少子高齢化、アフターコロナ等を見据え、四国に最適で持続可能な「公共交通ネットワークの四国モデル」の追求に向けて、議論や意見交換に資するよう当社の経営状況や輸送状況等の情報開示を推進することとしています。

このたび、2021年度の線区別収支と営業係数が取りまとめられましたので、別紙のとおり公表致します。

### 1 公表内容

2021年度線区別収支と営業係数

### 2 2021年度のポイント

#### ①全体の状況

○2020年度に引き続き、2021年度は全ての線区で営業損失を計上しています。

○対2020年度では、営業収益が新型コロナウイルス感染症の影響から一部回復した結果、営業損失は合計で19,934百万円となり、2,641百万円減少しました。しかし、対2019年度では、営業損失は合計で6,786百万円増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響等により厳しい状況が続いています。

#### ②個別線区の状況

○本四備讃線（児島～宇多津）は、支援措置に伴う国による本四連絡橋（鉄道関連部分）の更新費用負担等によって営業費用が減少した結果、営業損失は435百万円となり、対前年で1,102百万円減少しました。

○予土線（北宇和島～若井）は、営業収益、営業費用とも前年度に計上した補償金工事<sup>※</sup>の反動減等により減少した結果、営業損失は920百万円となり、対前年で34百万円減少しました。しかし、営業収益の規模が小さいため、営業係数は前年よりも悪化しました。

※補償金工事・・・国・地方公共団体等からの委託により、道路の立体交差や踏切拡幅などの工事において、当社の固定資産（線路、踏切設備等）の移転、撤去、補修等を目的に、委託相手から資金を受け入れ、その資金により当社が施工する損益勘定の工事

# 【別紙1】線区別収支と営業係数(2021年度)

<凡 例>

営業係数

- 500以上 (赤い点線)
- 200 ~ 500 (赤い実線)
- 150 ~ 200 (オレンジの実線)
- 100 ~ 150 (青い実線)
- 100以下 (青い点線)

100 / 営業係数

30.0億円 営業収益  
 30.0億円 営業費  
 ▲0.0億円 営業損益

営業係数 =  $\frac{\text{営業費}}{\text{営業収益}} \times 100$

※ 100円の収入を得るために要する費用



※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している。  
 なお、鉄道線路使用料収入等は含まない。  
 (共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等)

- ①線区の営業キロで按分
- ②線区の輸送人キロで按分
- ③線区の旅客運輸収入で按分
- ④線区の収入で按分
- ⑤線区の共通費を除く費用で按分
- ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分 (例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。  
 ※端数は四捨五入処理。  
 ※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

	営業収益 (百万円)	営業費 (百万円)	営業損益 (百万円)	営業係数
JR四国・全線合計 (2021年度)	14,979	34,913	▲19,934	233

## 【別紙2】線区別収支と営業係数(2021年度)

線名	区間	営業キロ (km)	平均通過人員 (人/日)	収支(百万円)			営業係数(円)	【参考】 共通費除く 営業係数(円)
				営業収益	営業費	営業損益		
本四備讃線	児島～宇多津	18.1	12,592	1,752	2,188	▲435	125	61
予讃線	高松～多度津	32.7	16,317	2,698	4,791	▲2,093	178	107
	多度津～観音寺	23.8	5,696	781	1,382	▲601	177	96
	観音寺～今治	88.4	3,376	1,855	3,948	▲2,092	213	117
	今治～松山	49.5	4,668	1,285	2,622	▲1,337	204	116
	松山～宇和島	96.9	1,945	1,625	3,476	▲1,852	214	121
	向井原～伊予大洲	41.0	274	120	752	▲632	626	304
土讃線	多度津～琴平	11.3	3,734	253	599	▲345	236	142
	琴平～高知	115.3	1,684	1,386	4,250	▲2,865	307	191
	高知～須崎	42.1	2,873	594	1,890	▲1,296	318	195
	須崎～窪川	30.0	786	144	762	▲618	531	296
高德線	高松～引田	45.1	3,505	838	1,974	▲1,135	235	131
	引田～徳島	29.4	2,593	438	1,241	▲804	284	168
牟岐線	徳島～阿南	24.5	3,574	362	1,078	▲716	298	176
	阿南～阿波海南	53.3	370	80	878	▲797	1,096	460
徳島線	佐古～佃	67.5	2,156	663	2,123	▲1,461	320	178
鳴門線	池谷～鳴門	8.5	1,557	50	232	▲182	468	265
予土線	北宇和島～若井	76.3	195	55	975	▲920	1,761	488
JR四国全線		853.7	2,955	14,979	34,913	▲19,934	233	—

※予讃線松山～宇和島間は内子線含む、予讃線向井原～伊予大洲間は海線。

※営業係数=営業費÷営業収益×100(100円の収入を得るために要する費用)

※共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等。

本社部門経費の例) 列車運行計画及び管理、安全・サービスの維持・向上、社員教育及び乗務員養成、総務・財務部門に係わる費用等。

※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している(鉄道線路使用料収入等は含まない)。

- ①線区の営業キロで按分 ②線区の輸送人キロで按分 ③線区の旅客運輸収入で按分  
④線区の収入で按分 ⑤線区の共通費を除く費用で按分 ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分(例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。

※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

※共通費除く営業係数：列車運行にかかる経費(乗務員にかかる経費や車両の動力費、駅業務にかかる経費、車両や地上設備の維持・修繕にかかる経費)に係わる営業係数。

※端数は四捨五入処理。

# 【参考:過去公表資料】線区別収支と営業係数(2019年度)

<凡 例> 営業係数

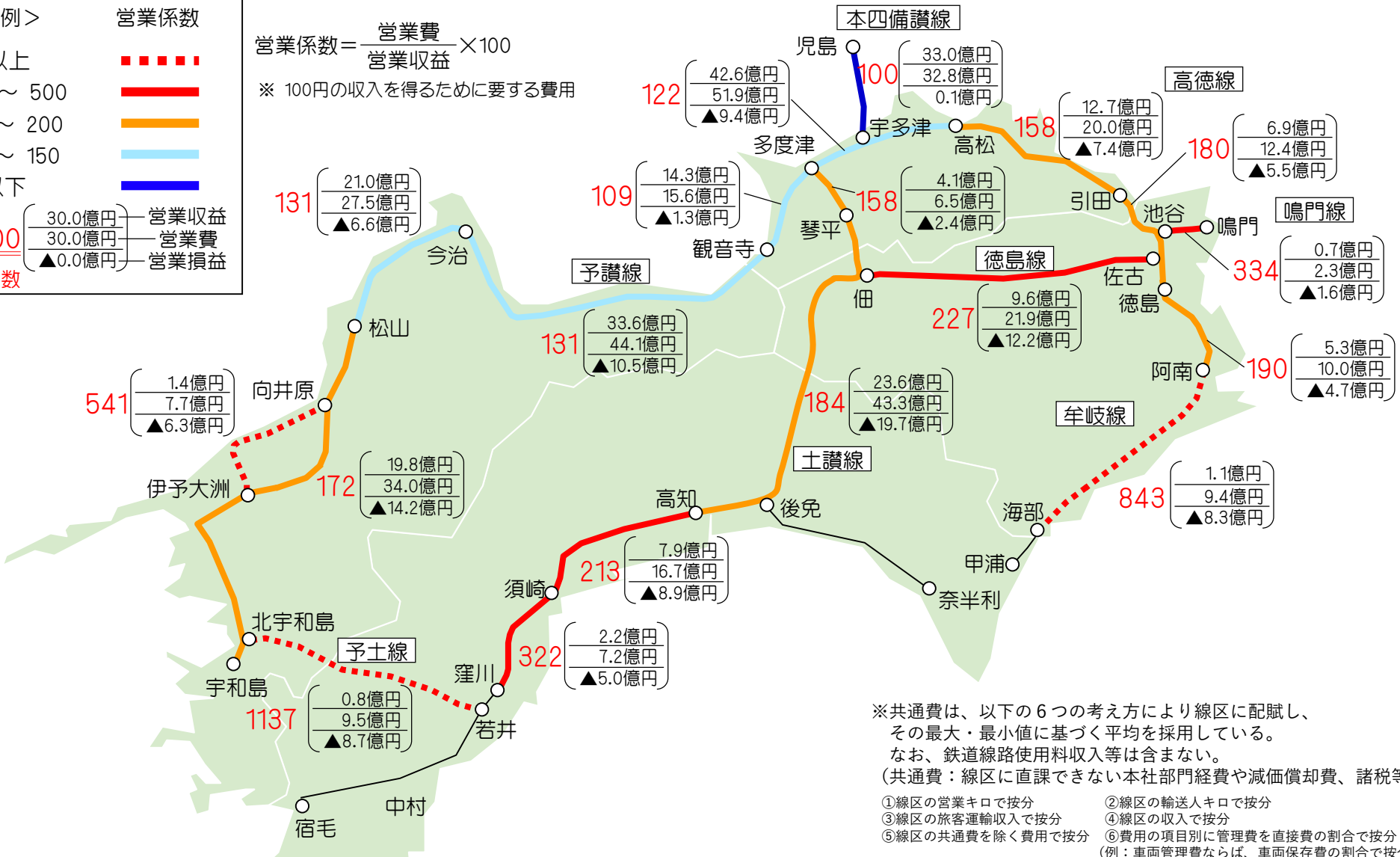
- 500以上 ■■■■■
- 200 ~ 500 ■■■■
- 150 ~ 200 ■■■■
- 100 ~ 150 ■■■■
- 100以下 ■■■■

100 営業係数

30.0億円 営業収益  
 30.0億円 営業費  
 ▲0.0億円 営業損益

$$\text{営業係数} = \frac{\text{営業費}}{\text{営業収益}} \times 100$$

※ 100円の収入を得るために要する費用



# 【参考:過去公表資料】線区別収支と営業係数(2020年度)

<凡 例>

営業係数

- 500以上 (赤点線)
- 200 ~ 500 (赤線)
- 150 ~ 200 (黄線)
- 100 ~ 150 (青線)
- 100以下 (紫線)

100 / 営業係数

30.0億円 営業収益  
 30.0億円 営業費  
 ▲0.0億円 営業損益

営業係数 =  $\frac{\text{営業費}}{\text{営業収益}} \times 100$

※ 100円の収入を得るために要する費用



※牟岐線阿波海南～海部駅間は2020年10月31日をもって鉄道事業を廃止(阿佐海岸鉄道に移管)

※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している。  
 なお、鉄道線路使用料収入等は含まない。  
 (共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等)

- ①線区の営業キロで按分
- ②線区の輸送人キロで按分
- ③線区の旅客運輸収入で按分
- ④線区の収入で按分
- ⑤線区の共通費を除く費用で按分
- ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分 (例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。  
 ※端数は四捨五入処理。  
 ※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

	営業収益 (百万円)	営業費 (百万円)	営業損益 (百万円)	営業係数
JR四国全線	13,438	36,013	▲22,575	268